

はくぶつかんネット

第7号

～ GINOWAN MUSEUM ～



▲ 戦前の宜野湾「お盆」仏壇の様子



▲ 「お盆」の重箱料理

2002年

1・2月

奇数月の15日発行
(次号は3月15日)

発行：宜野湾市立博物館
<TEL> 098-870-9317
<FAX> 098-870-9316
<ホームページ> <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/home.nsf>

宜野湾市立博物館 企画展

食と年中行事

なつかしの宜野湾

2002年

～ 2月17日(日) から3月24日(日) まで開催 ～

入場無料 午前9時～午後5時 火曜日・3/21休み



博物館イメージキャラクター
天女ちゃんと察度

日本一の長寿地域である沖縄県は、健康長寿を支えてきた『食文化』が世界から注目を集め、沖縄郷土料理に対する関心が非常に高まっています。

その一方、沖縄の『年中行事』は、時代の移り変わりや生活様式の変化などの結果、形骸化したものや、すでに消滅したものも少なくありません。

私たちの暮らす宜野湾にも、古くから数多くの『郷土料理』と『年中行事』があります。今こそ、祖先の残したこの郷土料理と行事との意味を深く理解し、後世に伝える時ではないでしょうか？

企画展では、大正時代から昭和の初期頃(戦前)までの「食」と「年中行事」に焦点をあて紹介します。

四季折々の「野菜」や「くだもの」の『日常食』。

ごちそうの食べられる『年中行事』。

そして、そんな民族料理の背景として、食をになった『民具』の数々。

「なつかしさ」を感じるとともに、「過去と現在を知り未来を考える」きっかけになるとと思います。

★オープニング セレモニー・記念講演会のご案内

2月17日(日) 午後1時より受付開始 場所：博物館ロビー

午後2時30分～3時30分頃 記念講演会

演題：「どう食べるか？ 沖縄の食のこれから」 ～健康日本21をうけて

講師：友利 知子先生 (沖縄女子短期大学非常勤講師・料理研究家)

今回市民を対象に「沖縄料理の好き嫌い・理解度」についてアンケートを取りました。その結果をもとに沖縄の食の成り立ちや問題点を、具体的に専門家の立場からお話ししていただきます。郷土の文化に触れるまたとない機会です。ぜひ、ご参加ください。

常設展示室

◆『宜野湾人の顔』の展示案内◆

常設展示『宜野湾人の顔』の展示替えをしました。
今回は世界のジノーンチュと題し、宜野湾市出身で移民なされた方10名の顔写真を展示しています。この展示は今年の3月18日(月)までの予定です。

昨年11月1日から4日までに開催された、「世界のウチナーンチュ大会」。撮影は、その期間中に行われた市出身者の交流会にて行いました。市出身者が世界中で活躍なさっていることは、同じ市民として大きな励みとなります。

この『宜野湾人の顔』の展示は、開館当初から市内の各自治会の協力を得て、約3ヶ月ごとに展示替えを行っています。次回は、普天間2区の方々を紹介する予定です。

『宜野湾人の顔』の展示を見学する際には、常設展示室観覧料が必要となります。



▲ 展示の様子

アイヌ伝統工芸展の報告

昨年11月17日(土)・18日(日)・19日(月)、北海道より4名のアイヌ伝統工芸作家が来沖し、木彫り・アットウシ織り・アイヌ文様刺しゅうの展示会を行いました。

3日間と、開催期間が短かったにもかかわらず、約426名(芳名録より)の方が来館し、展示会は大成功でした。

見学に来た方々は、民族楽器「ムックリ作り」や、「アイヌ文様刺しゅう講習」、「伝統玩具の体験」など数々のイベントに積極的に参加し、楽しんでいました。会場のあちこちで、アイヌとウチナーンチュの文化と心の交流を目にすることができました。

展示会終了後、アイヌ伝統工芸作家の方より、心のこもったお手紙が届きました。その中から一部をここに、掲載させていただきます。



▲ アイヌ伝統工芸展



▲ アイヌ伝統工芸展

私どもは沖縄の方々に、日本の国土の中、北海道にアイヌが居り、それなりの文化を持った民族であることを知って頂ければ、本当にうれしく思います。日本語の「こんにちは」は、アイヌ語で「イランカラッテ」です。この言葉には、「私の心をあなたの心にふれさせてください」という、もう一つの意味があります。ウチナーンチュとアイヌの心の内を、もっともっと身体で心で語り合いたい気持ちです。

最後に、心よりお礼申し上げます。

イヤイヤイケレ (アイヌ語で、「ありがとうございます」)

◎ 大山ターンム畑の魅力



▲ リュウキュウベニイトトンボ

大山のターンム畑は、国道58号線と宜野湾バイパスに挟まれた所に位置している。58号線から見ると、ターンム畑の存在には全く気づかないが、一歩中に入ると一面青々とした緑のターンム畑が広がっている。

大山のターンムは宜野湾市の伝統産業であり、そのターンム畑は、湧き水によって潤された、豊かな湿地になっている。そこには多種多様な動植物がすみ、それぞれの営みがあり、そのようなものにふれると、まるで別世界に来たような感じである。

おびただしい数の車が往来し、建物が建ち並び都市化された宜野湾市においては、まさに心が癒されるオアシスのようなものである。そのようなターンム畑の素晴らしさ、大切さを知ってもらおうと博物館では、自然観察会やターンムの植え付け・収穫の体験、また去年8月には「大山の自然」展を行うなど、地道な活動が続けている。

平成14年度からは、学校教育において総合学習の時間が組み込まれ、さまざまな地域学習がスタートする。大山のターンム畑でも環境学習、自然学習、農業学習などが可能であり、ぜひとも多くの学校、学級が活用してほしい。

平成13年度 第2回講演会

宜野湾市の移民のはなし

講師：仲地哲夫（沖縄国際大学教授）

★参加無料

日時：平成14年 3月30日（土） 午後2時～4時頃まで

場所：市立博物館 企画展示室

定員：なし

対象：高校生以上

沖縄県は移民の多い県です。昨年には「第3回世界のウチナーンチュ大会」が開催され、世界中から多くの方が参加しました。取り上げられる機会は少ないのですが、宜野湾市出身の移民の方も多くいらっしゃいます。移民もまた、宜野湾市の歴史を語るのに欠かせない存在なのです。

今回の講演会を通して、宜野湾市の移民に対する関心を高め、今後の調査や資料収集につなげていくことができれば、と考えています。ぜひ、ご参加ください。

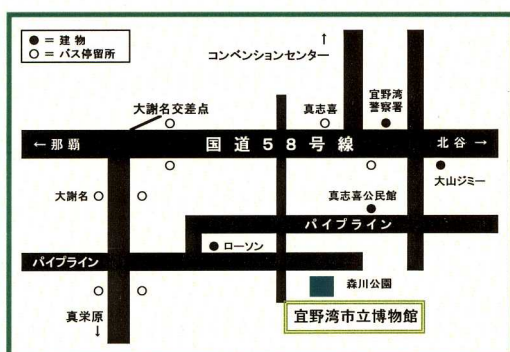
平成13年度の事業あんない

月	日	曜日	内 容	期 間
2	17	日	企画展「なつかしの宜野湾～食と年中行事」 ○記念講演「どう食べるか？沖縄の食のこれから」～健康日本21をうけて 講師：友利知子（沖女短大講師） / 2月17日 午後2時30分～	3月24日まで
3	30	土	第2回講演会「宜野湾市の移民のはなし」 ○講師：仲地哲夫（沖縄国際大学教授）	午後2時～4時

※ 日時は未定の場合がありますので、変更に関してはご了承ください。

◎ 詳しい日程や内容については、事業開催1ヶ月前にチラシや市報、新聞・雑誌の情報欄、はくぶつかんネットなどに掲載いたします。

◆宜野湾市立博物館の案内◆



△ 大型バスの駐車スペース有り

〒901-2224

沖縄県 宜野湾市 真志喜 1-25-1

TEL : 098 - 870 - 9317

FAX : 098 - 870 - 9316

ホームページ : <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/home.nsf>

◎ 開館日・時間

平日、土、日曜日の
午前9時～午後5時

※ 入館は午後4時30分まで

◎ 休館日

火曜日、祝祭日、慰霊の日（6月23日）、
年末年始（12月29日～1月3日）

※ その他、くん蒸による臨時休館日あり

◎ 常設展示室 観覧料

	大人	高校・大学生	小・中学生
個人	200円	100円	50円
団体	150円	50円	30円

※ 団体は20名以上から



★ 博物館のホームページを開いてみよう！

昨年6月から、博物館のホームページを開設しています。主な内容は博物館案内、行事の最新情報、はくぶつかんネットのバックナンバー、わらば体験じゅくの情報などがあります。ホームページ上では、第1号から最新号まで、はくぶつかんネットをカラーで見ることができますよ。

各地でIT講習会が開催されています。インターネットの練習として、博物館ホームページも開いてみてください。きっと、いろいろな情報を得ることができると思いますよ。

◎ ホームページアドレス → <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/home.nsf>